

Creative Application A01

メディア学とCreative Application

2026年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

Creative Applicationとは

- ▶ 「メディアApp」の実現を目指す演習
- ▶ メディア学の素養と新しい技術体系に触れ, iOS Appを開発実践します



このような方に向いています

- ▶ ソフトウェア開発に興味がある方
- ▶ オリジナルのAppを作ってみたい方
- ▶ メディア学を自分の目的に活かしたい方

教員紹介

▶ 戀津 魁 (れんつ かい)

- ▶ MS6期 博士(MS) メディア学部助教
- ▶ メディアインフォマティクス, データベースエンジニア

▶ 渡邊 賢悟 (わたなべ けんご)

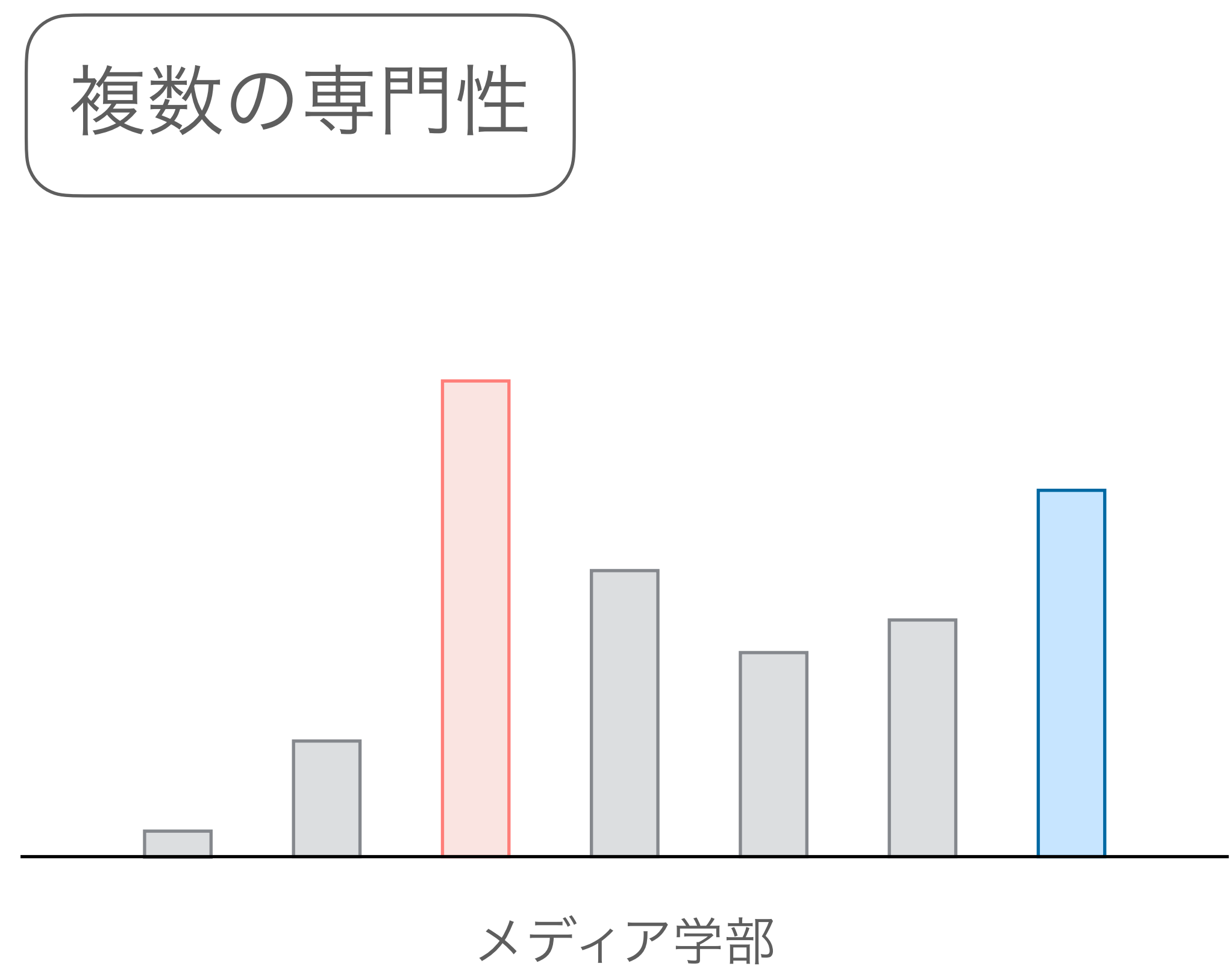
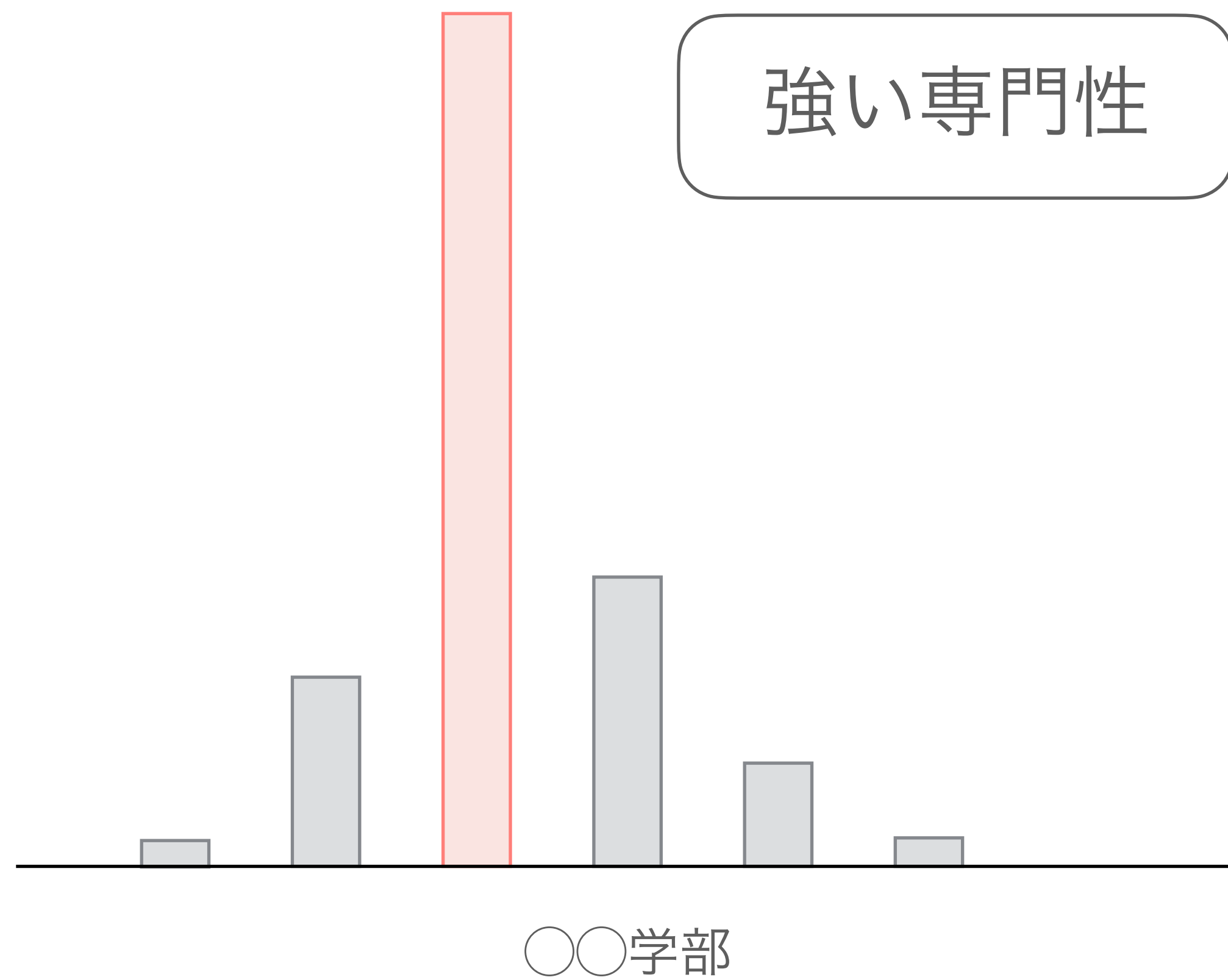
- ▶ MS1期 博士(MS) 渡辺電気(株)代表取締役
- ▶ ペイントグラフィクス, Appエンジニア, 経営者
- ▶ **メディア学 + App開発** を業務に活用中

▶ 技能を活性化するメディア学の大切さを伝えたい

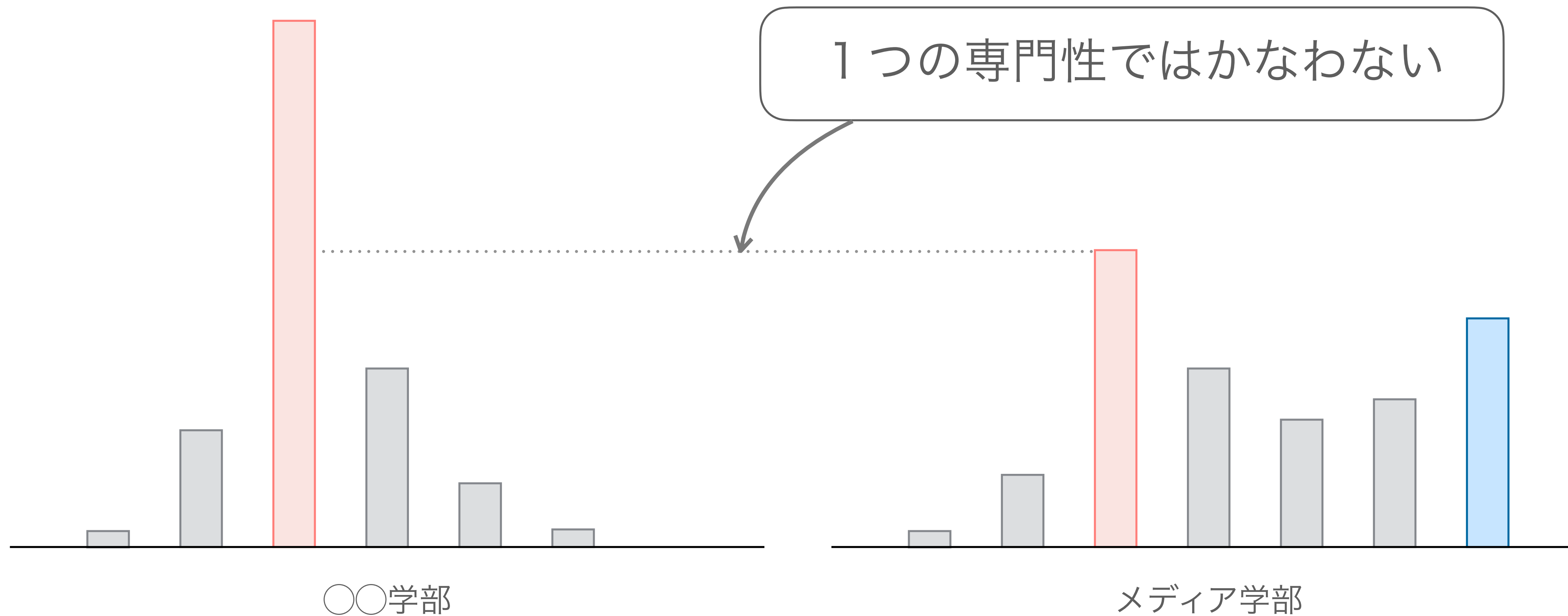
メディア学部とは

時代と社会に求められるメディア学の強み

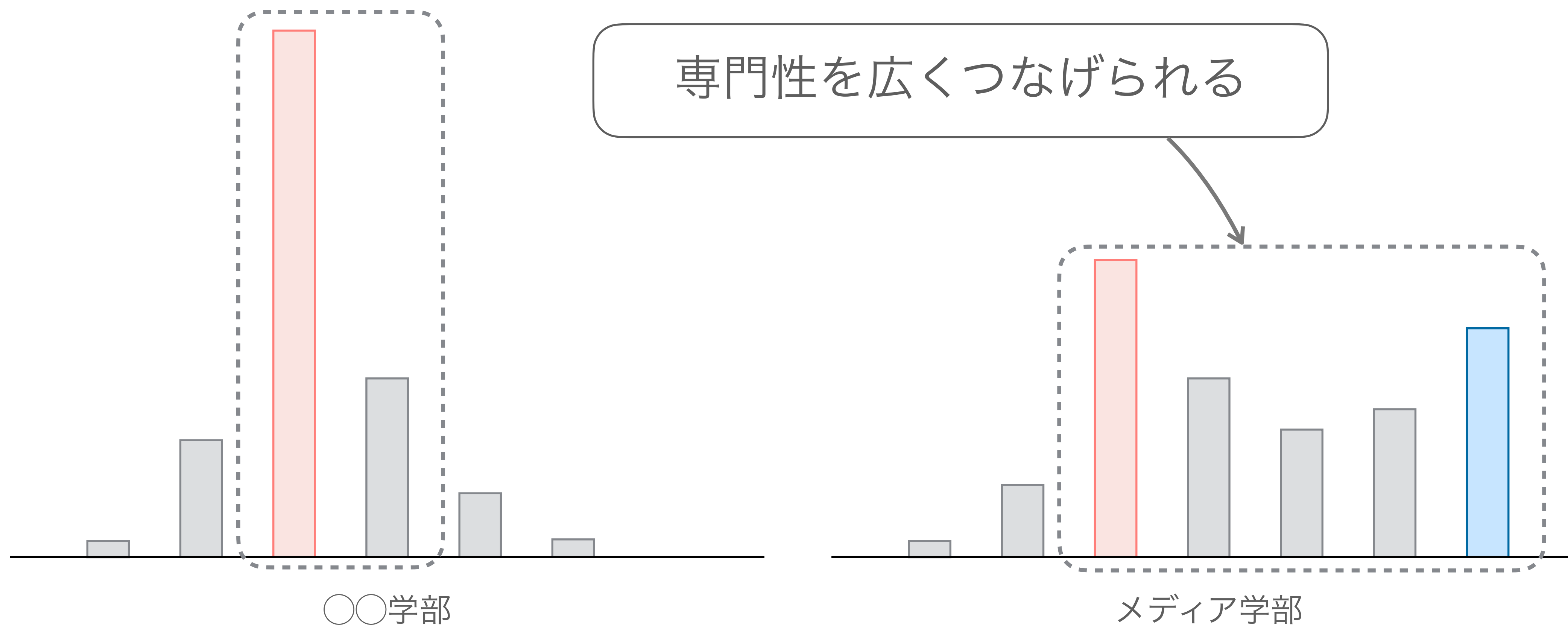
専門性と大学



メディア学部の弱いところ

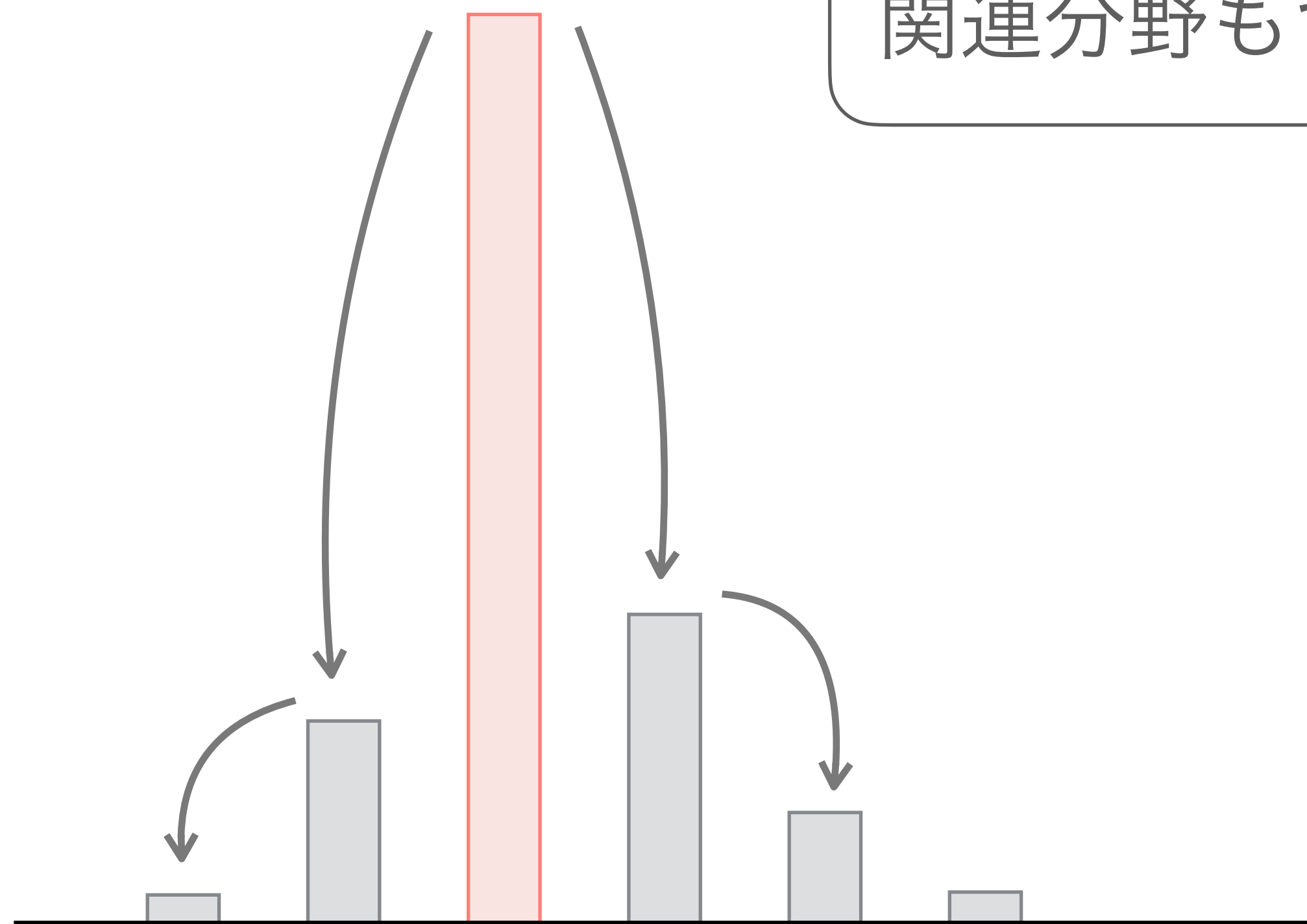


メディア学部**の強いところ**

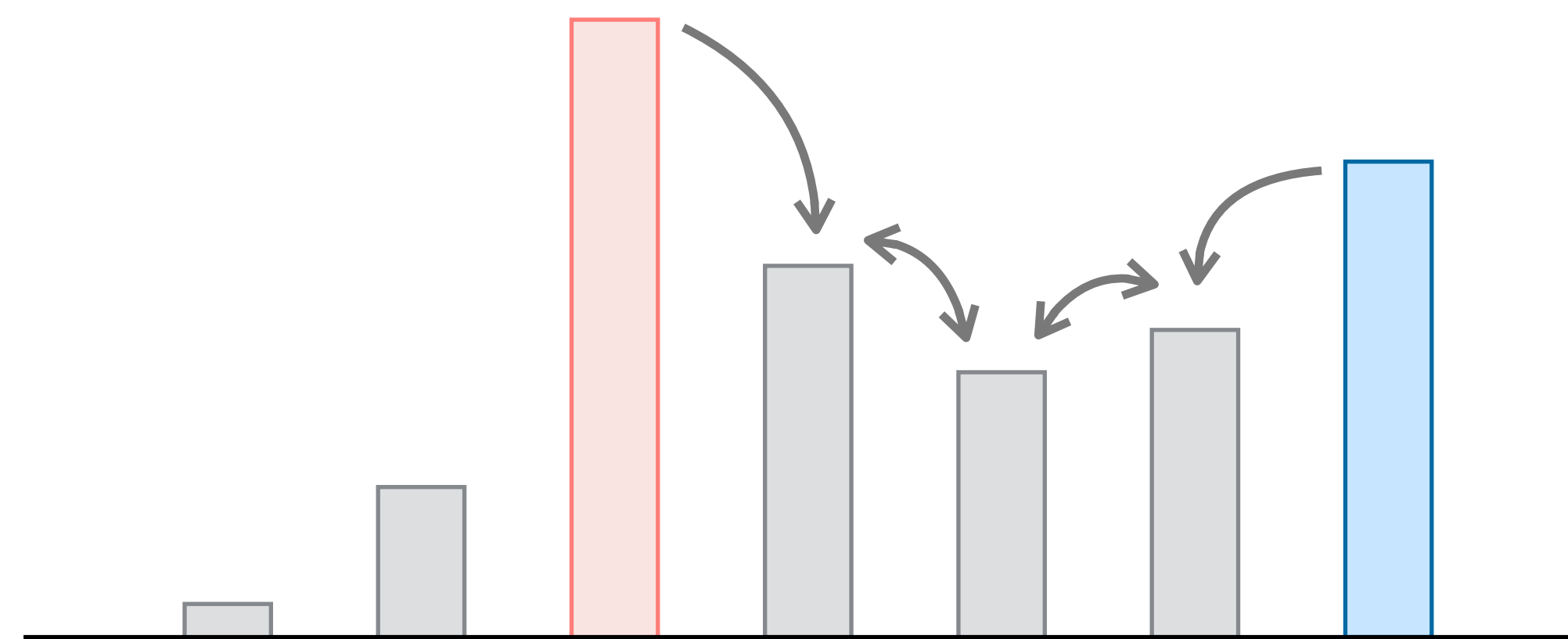


専門性の伝播

関連分野もつられて伸びる



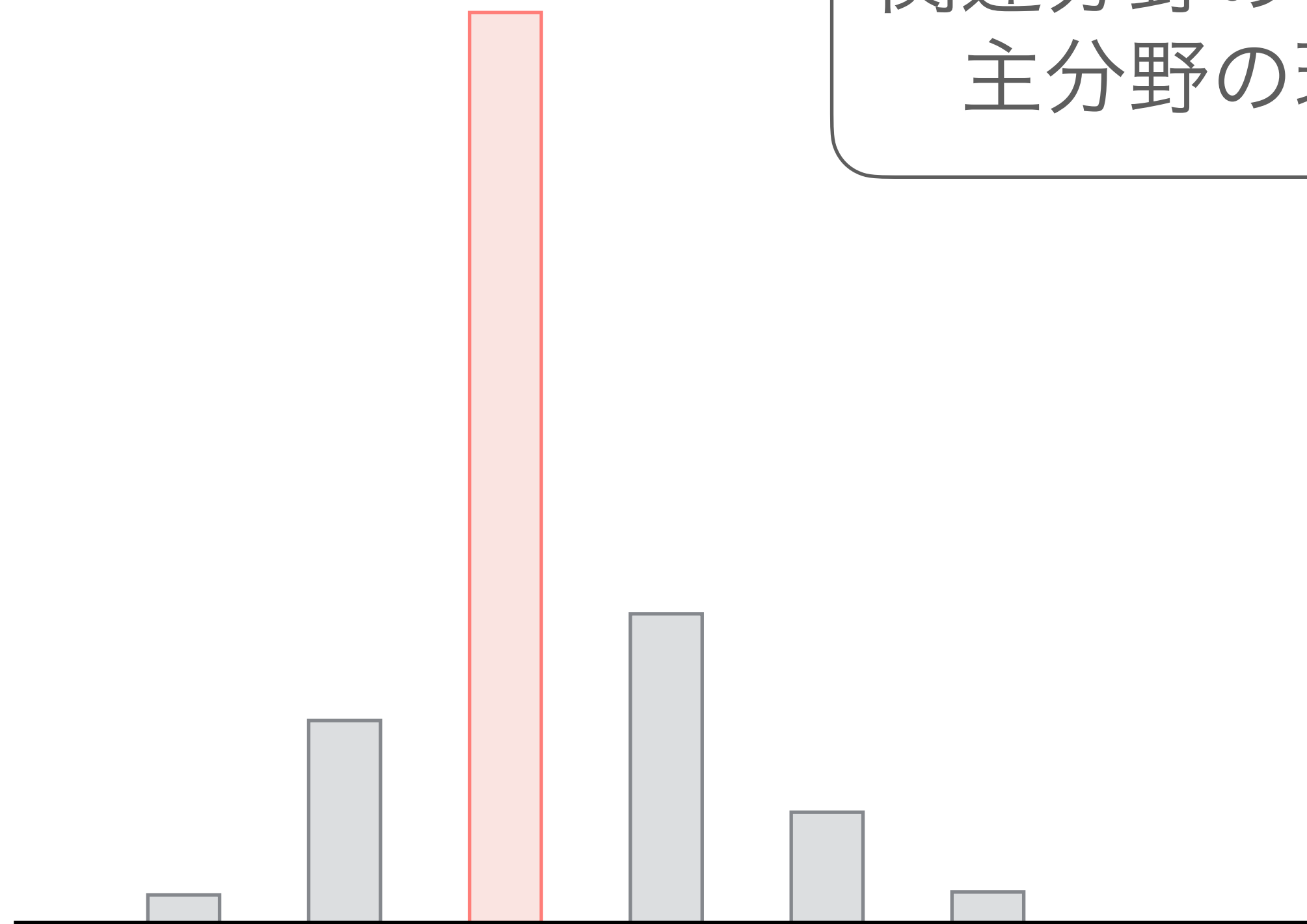
○○学部



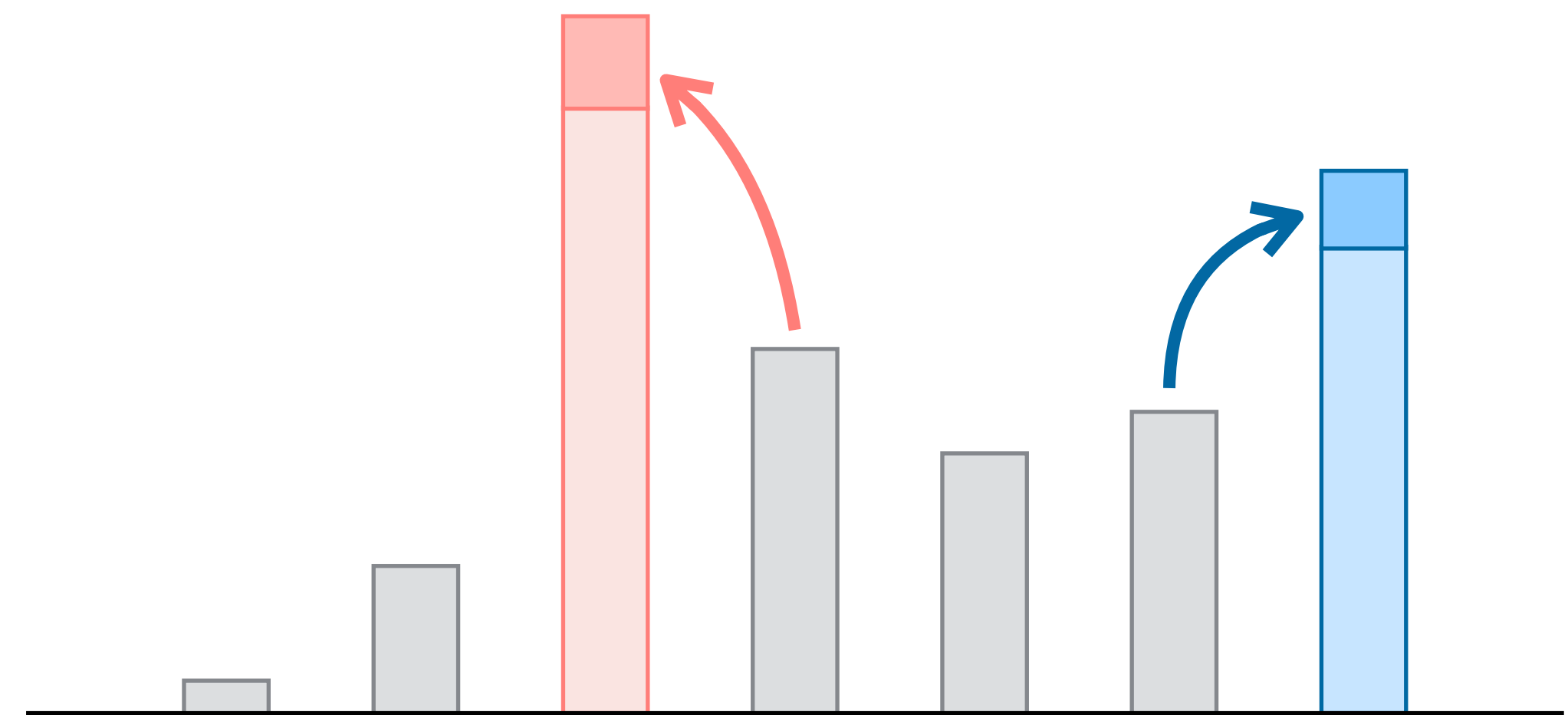
メディア学部

分野間フィードバック

関連分野の視点をヒントに
主分野の理解が深まる



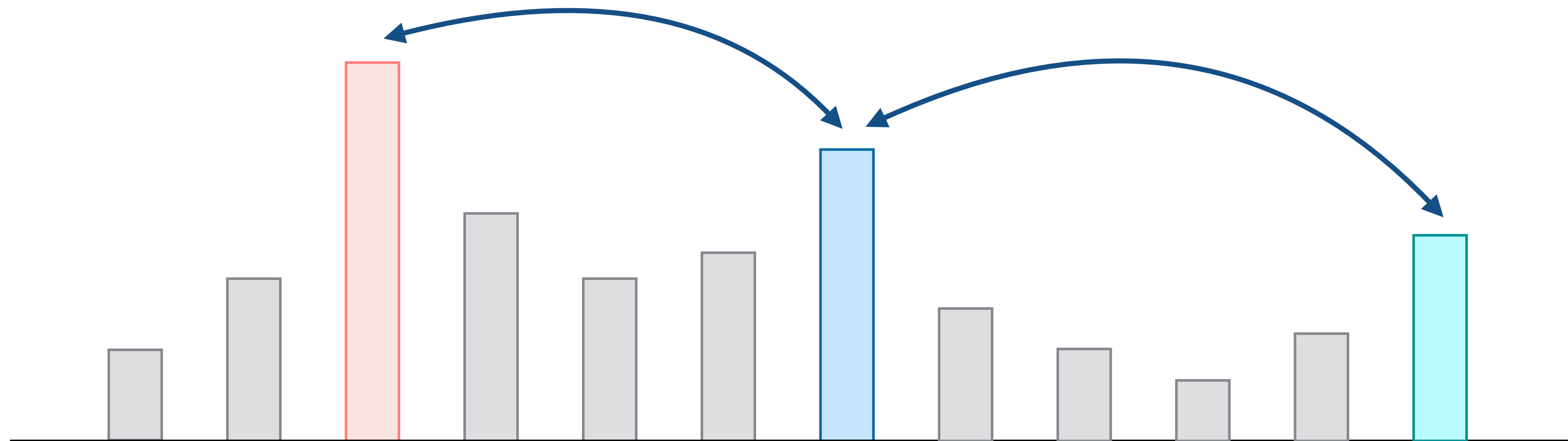
○○学部



メディア学部

専門性をつなぐメディア学部

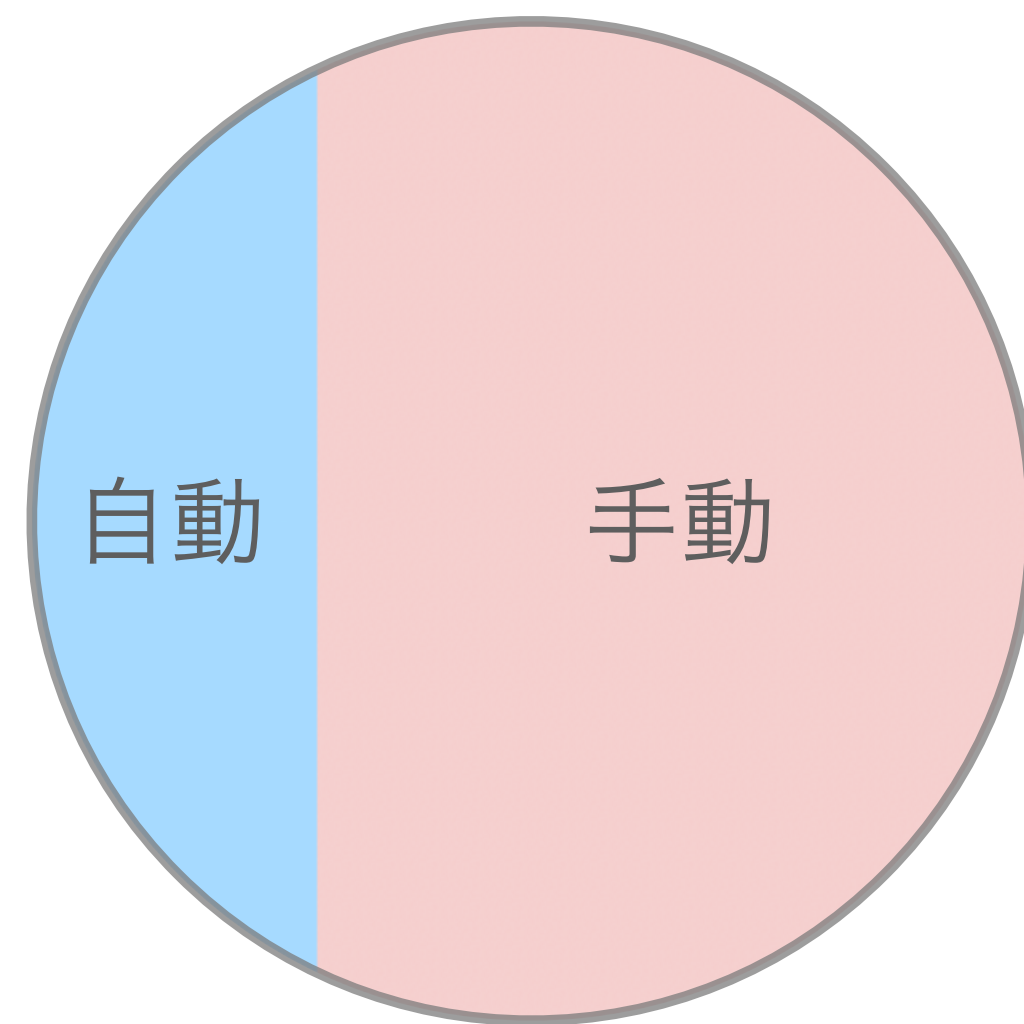
マルチメジャー (複数の専門性)



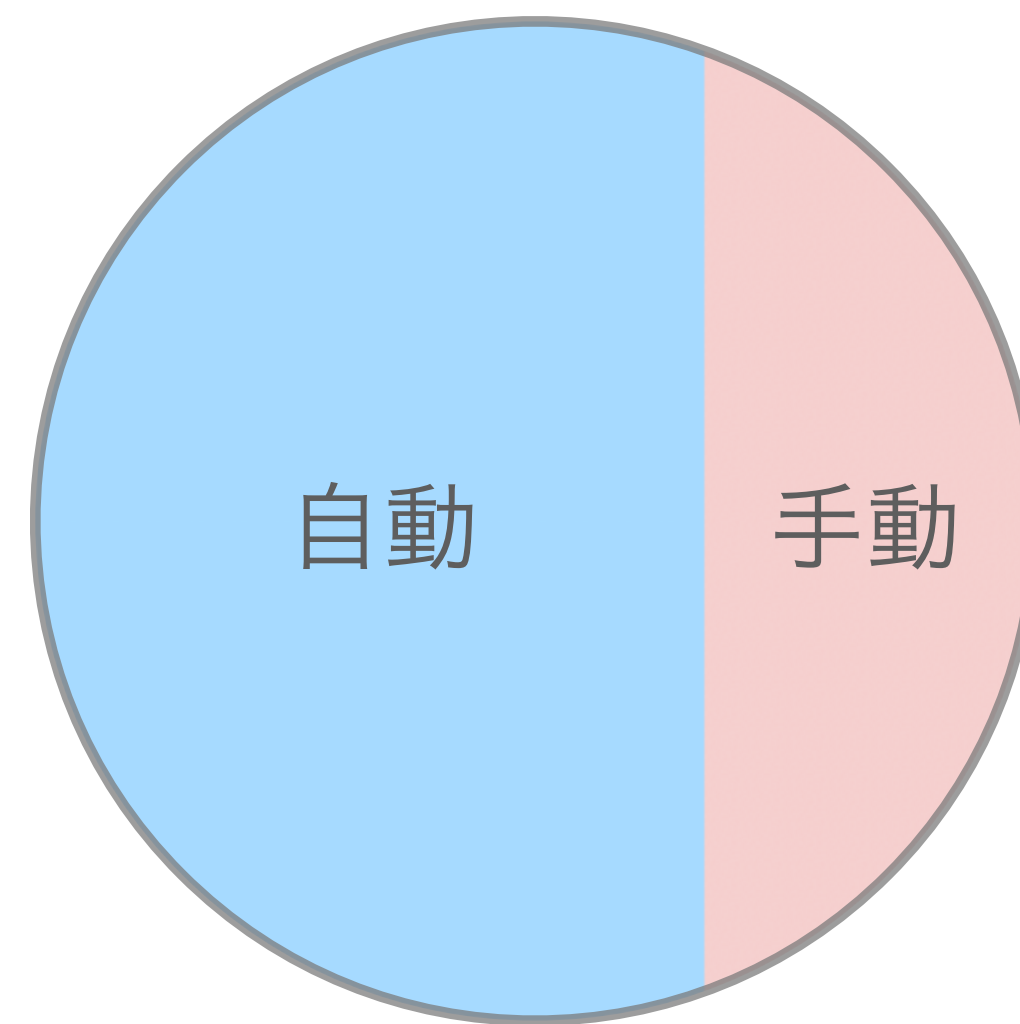
専門性をつなぐ思考

時代の要請

- ▶ あらゆる分野の専門技術の自動化が進んでいます
- ▶ 単純な図ですが、技能習得は不要になるのでしょうか？



これまでの技能発揮



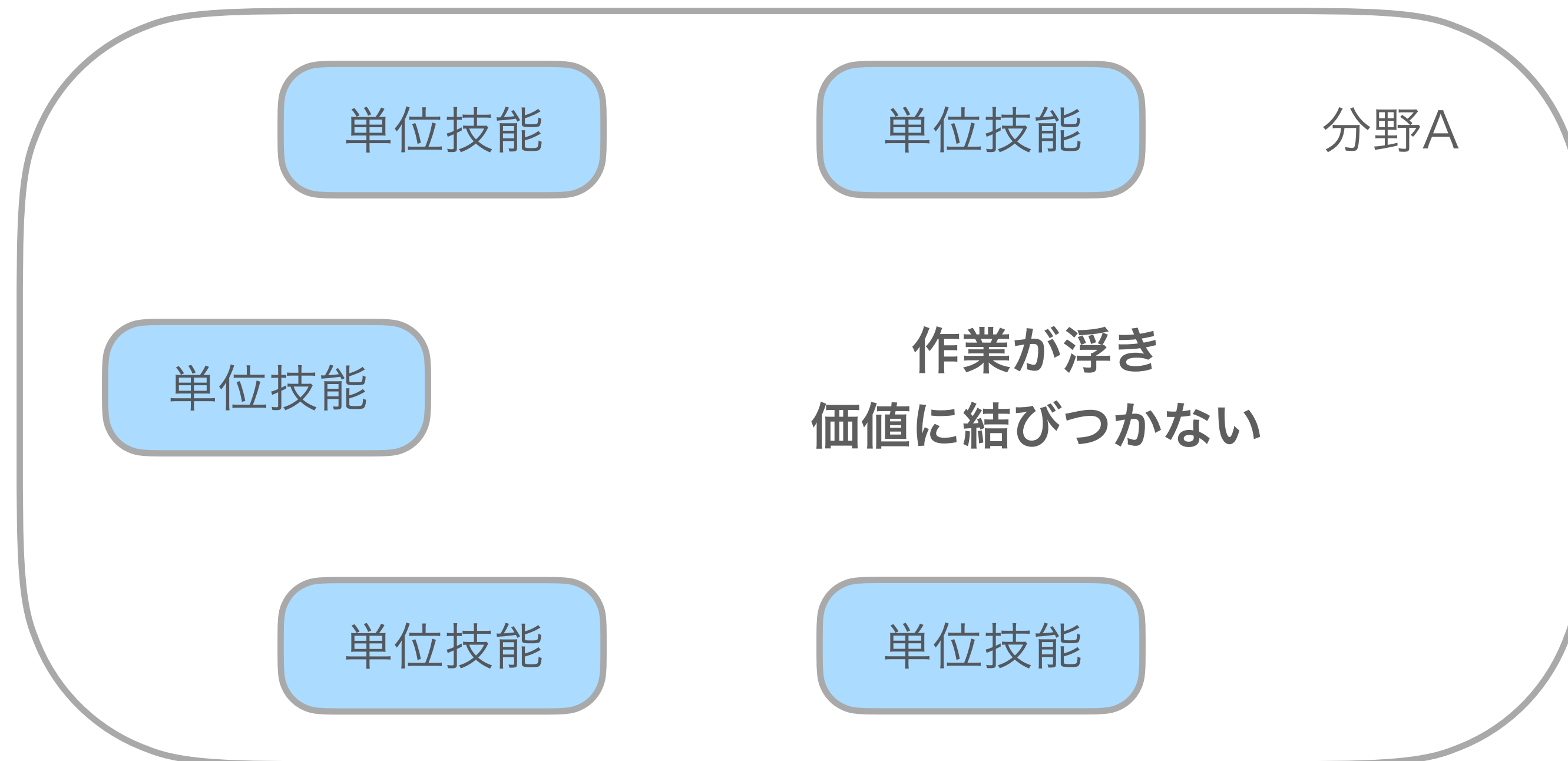
最近の技能発揮



将来は人手不要？

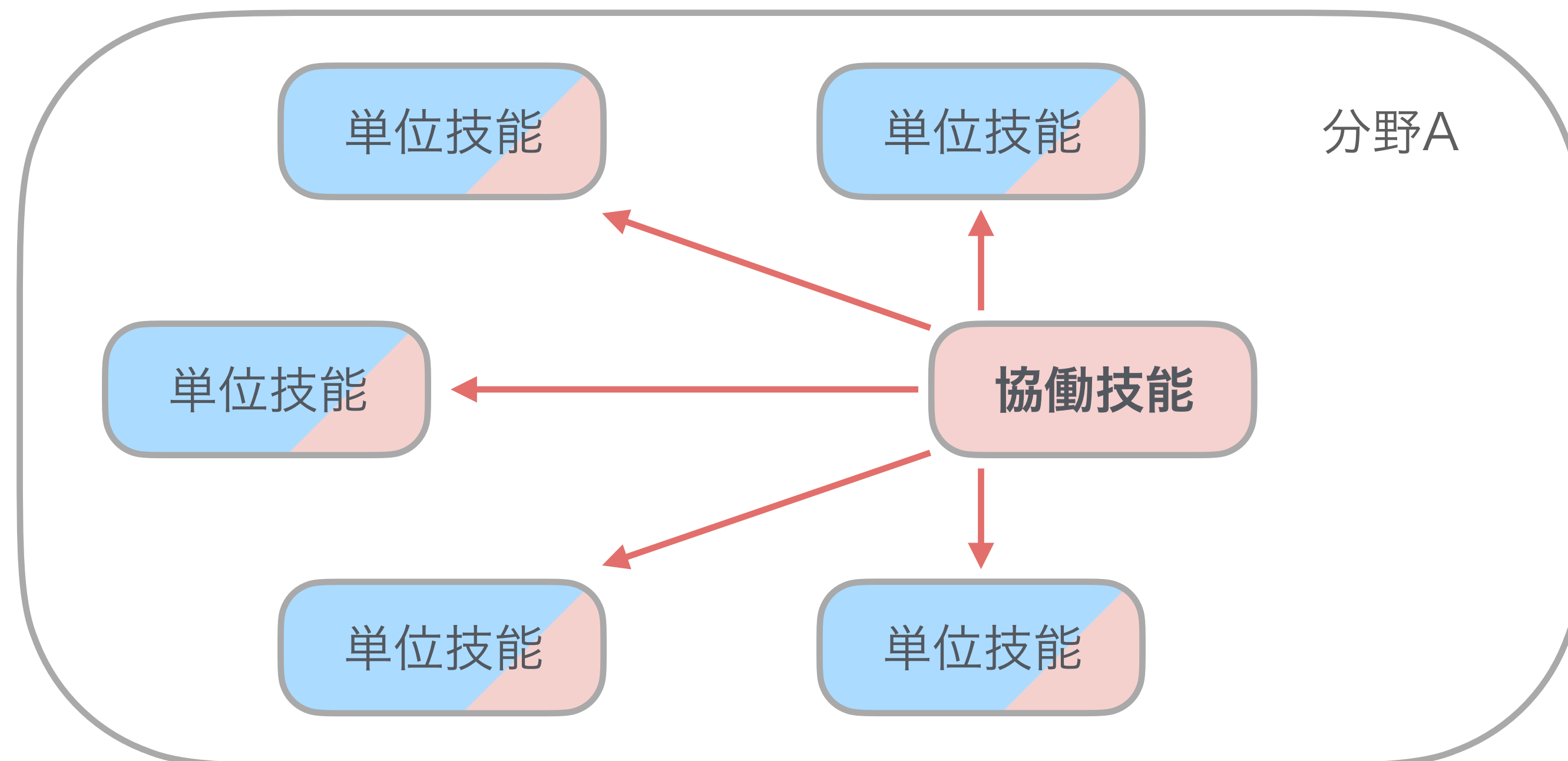
単位技能の自動化

- ▶ 単位技能の自動化は著しく進歩しています
- ▶ しかし単位技能1つでは価値が生まれにくいです



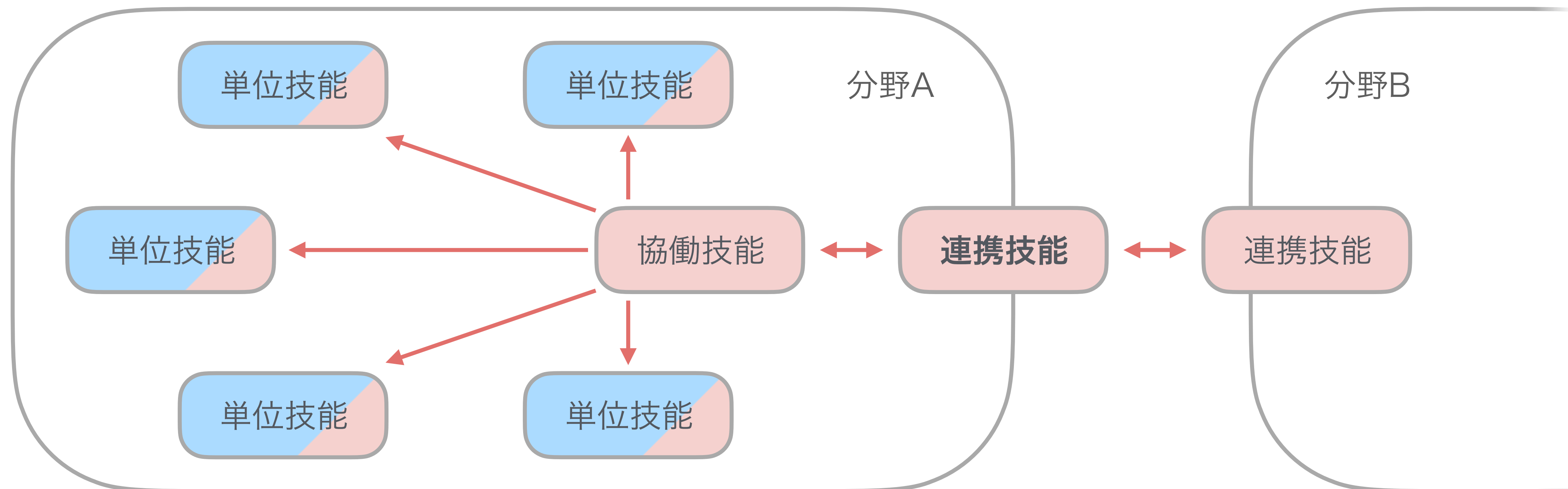
協働技能で技能をつなぐ

- ▶ 単位技能を活かすには**協働の技能が重要**です
- ▶ **単位技能を理解し, 価値を引き出し, 分野を活性化**します



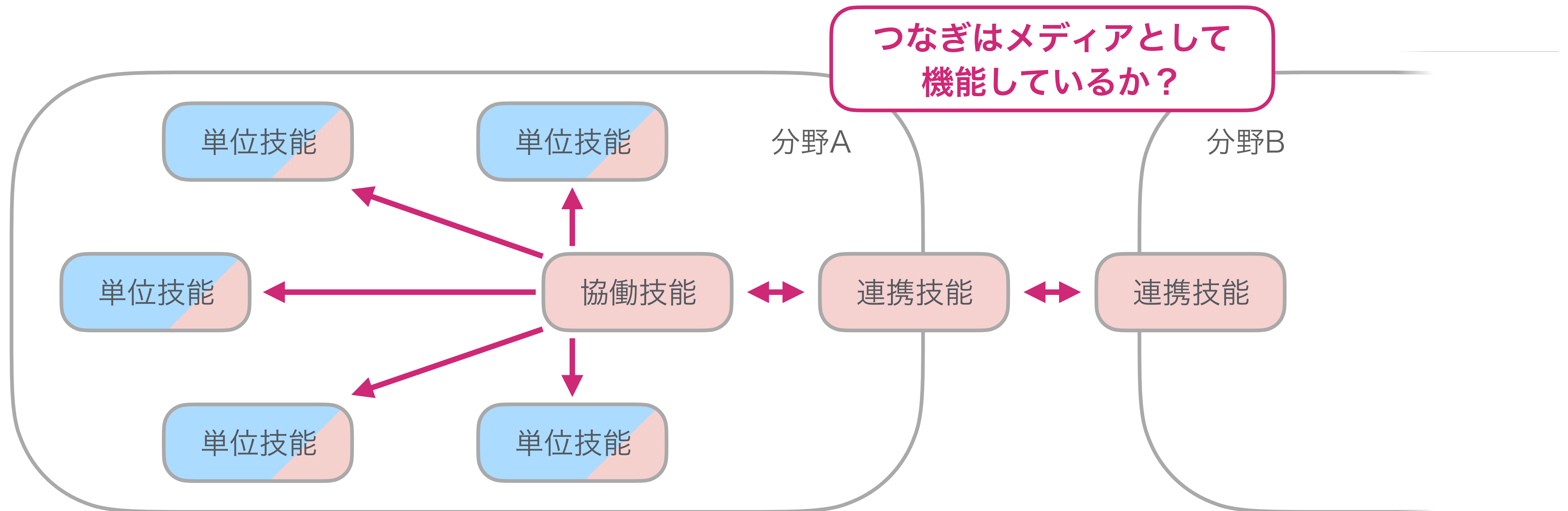
連携技能で分野をつなぐ

- ▶ さらに分野を社会で活かすには他分野と連携します
- ▶ 現代, **分野をつなぐ連携技能**の重要性はさらに増しています



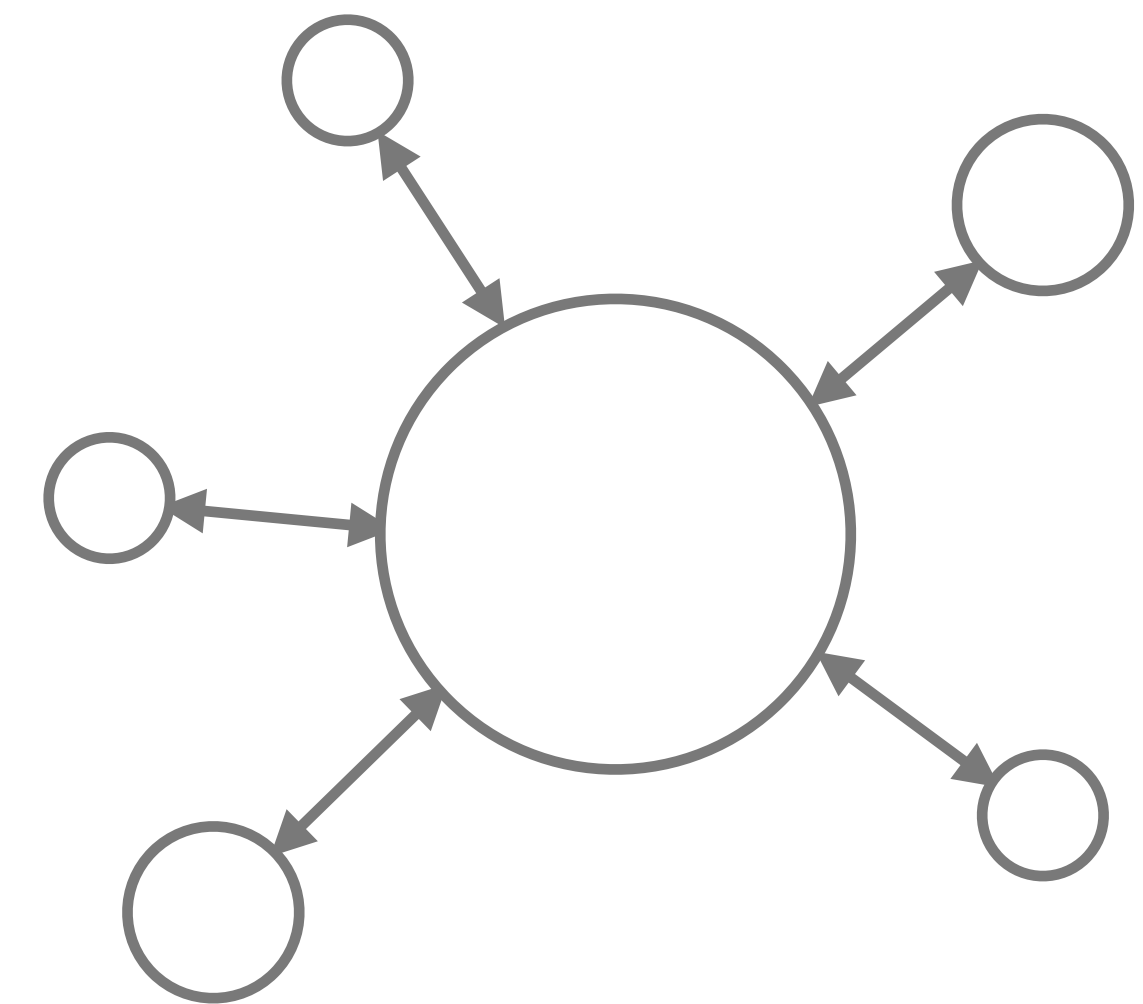
つながぎのメディア性

- よってつないだところのメディア性が問われます



社会の要請

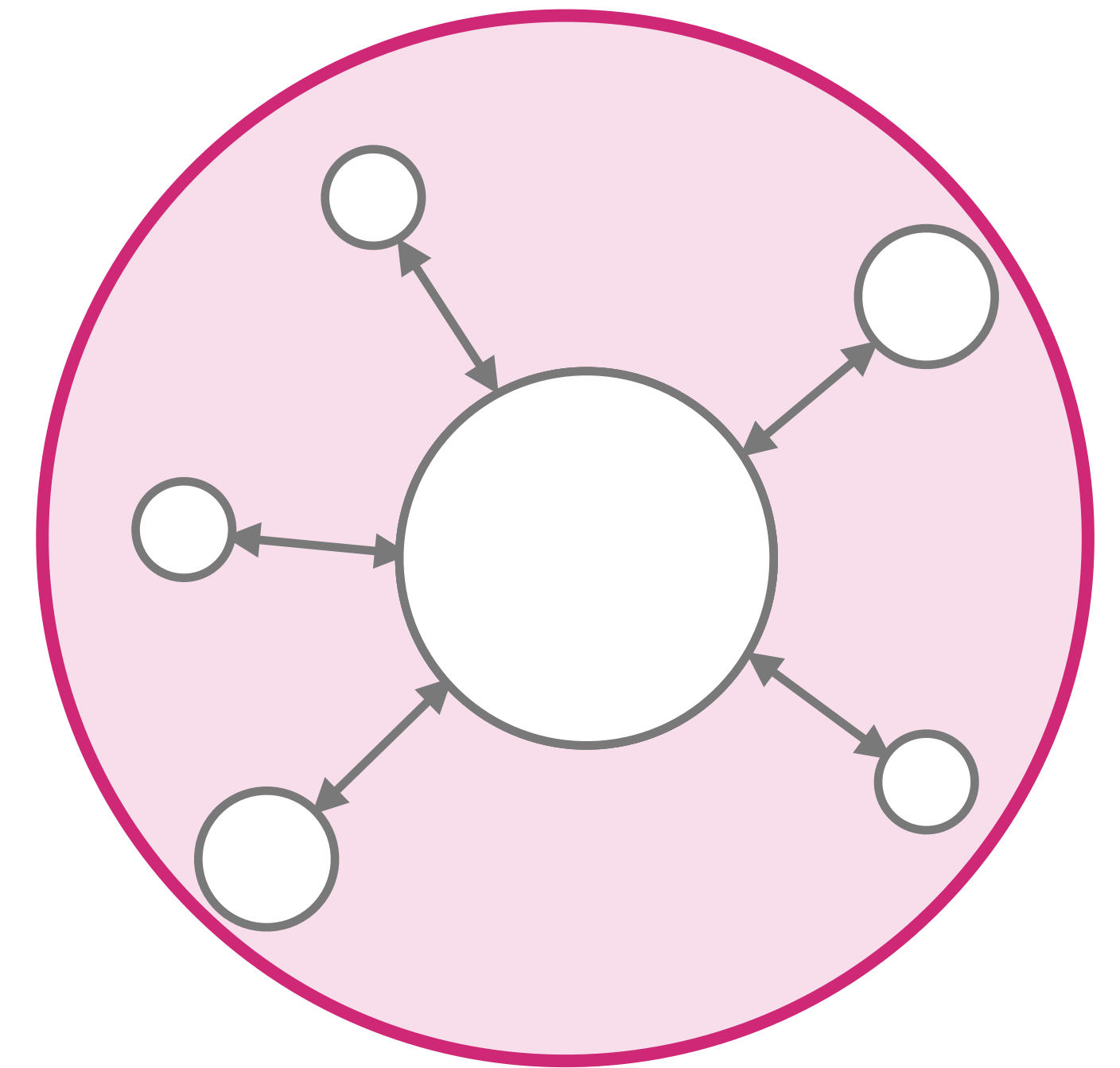
- ▶ **分野をつなげられる人材が求められています**
 - ▶ 異なる分野の文脈をつなげる人が不足しています
- ▶ 分野の相互理解・相互作用が重要な時代へ
 - ▶ **協働技能と連携技能の必要性**が増しています



分野の相互作用空間

メディア学部を活用

- ▶ **メディア学部は分野をつなぐ力を培う学部です**
 - ▶ **分野内をつなぐ協働技能, 他分野をつなぐ連携技能**を育みます
 - ▶ 多分野の仲間が集まる場所をどう活かすかが重要です
 - ▶ **主としたい分野**
 - ▶ 自主活動, 学外活動を強く推奨
 - ▶ **それ以外の分野**
 - ▶ なるべく多くの未知の分野への接触を推奨
- ▶ **分野融合環境を楽しみ, つなぎに長けた人になってください**



分野融合 = 新分野環境

演習内容の紹介

2つの役割と3つの取り組み

本演習のテーマ

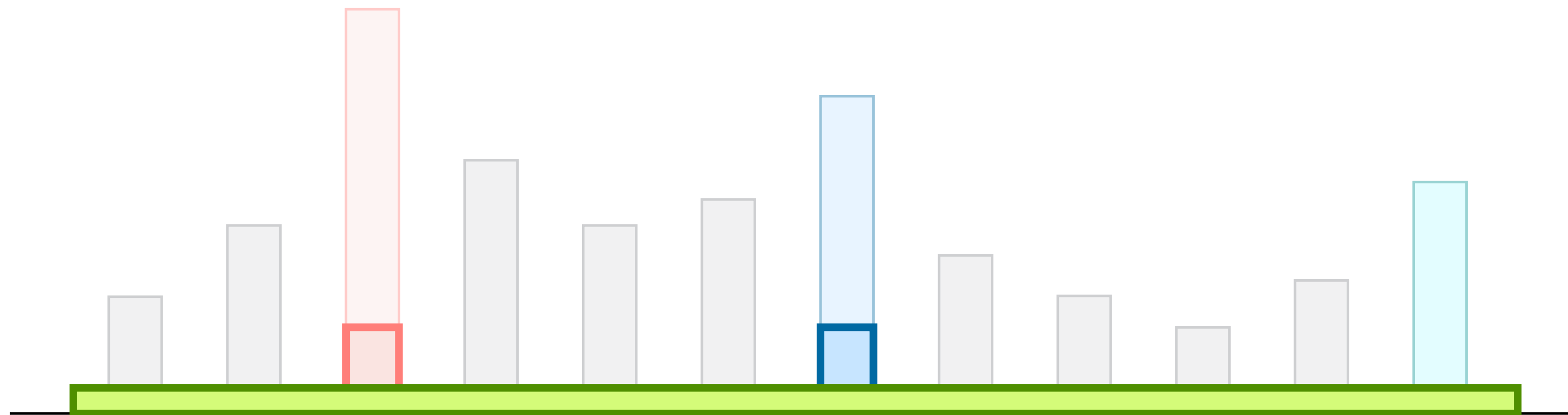
思考・技術・美・社会をつなぐメディアとApp

思考・美・技術

- ▶ 思考と美と技術はもともと1つでした
- ▶ ばらばらでは技術の本領を発揮できません
- ▶ 美と思考と技術の再融合を目指し、技術の活性化をねらいます
- ▶ 本演習では**協働技能・連携技能のコア**として美と思考に注目します

2つの役割

2つ以上の専門性への導入

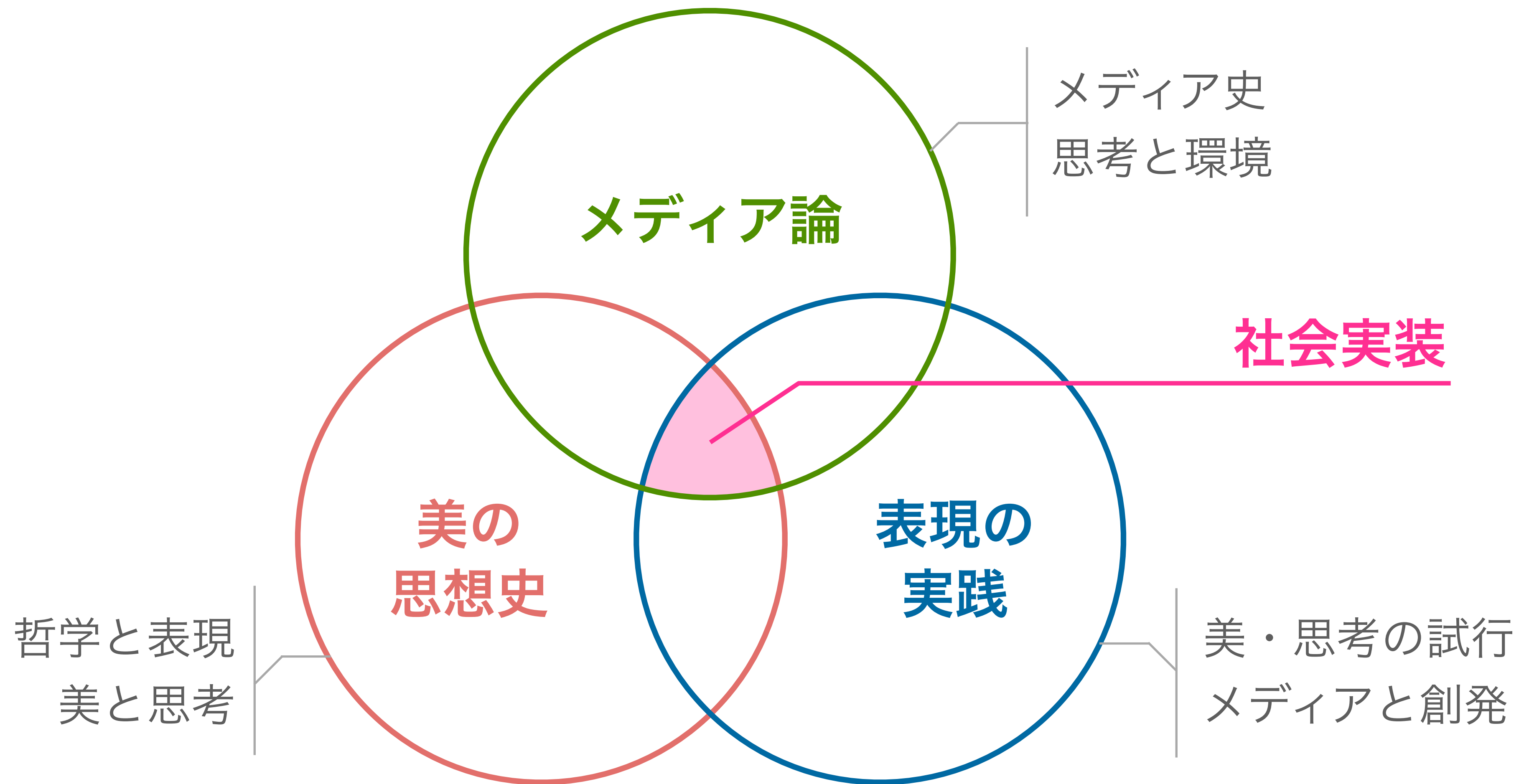


専門性をつなぐ思考

分野融合とメディア

- ▶ **つなぎ方を考えるメディア学**
 - ▶ 分野のつなぎ方にも良い悪いがあります
 - ▶ 良いつなぎ方を見極めるため、メディアの概念理解が望まれます
 - ▶ メディアへの理解は、協働と連携の力の源です
- ▶ **美・思考・技術・社会を”良く”つなぐメディアとApp**

3つの取り組みと社会実装



社会実装

- ▶ 「研究開発によって得られた知識, 技術, 製品, サービスを実社会で活用すること」 (大辞泉)
- ▶ メディア学部におけるメディア社会実装
 - ▶ **分野を融合して社会へつなぎ, 社会に益する物事を実現すること**

メディア論1 - 知識をつなぐメディア

- ▶ **”メディア”**
 - ▶ **受発信によってメッセージを伝える状態**
- ▶ **なぜ”メディア”が重要なのか**
 - ▶ 歴史上, 分野融合時に文明の進歩がみられます
 - ▶ 分野のつなぎは”メディア”が担っています
- ▶ **”メディア”が進歩に重要な役割をもつことを確認します**



“Maqamat hariri” Zereshk

メディア論2 - 知識の再融合

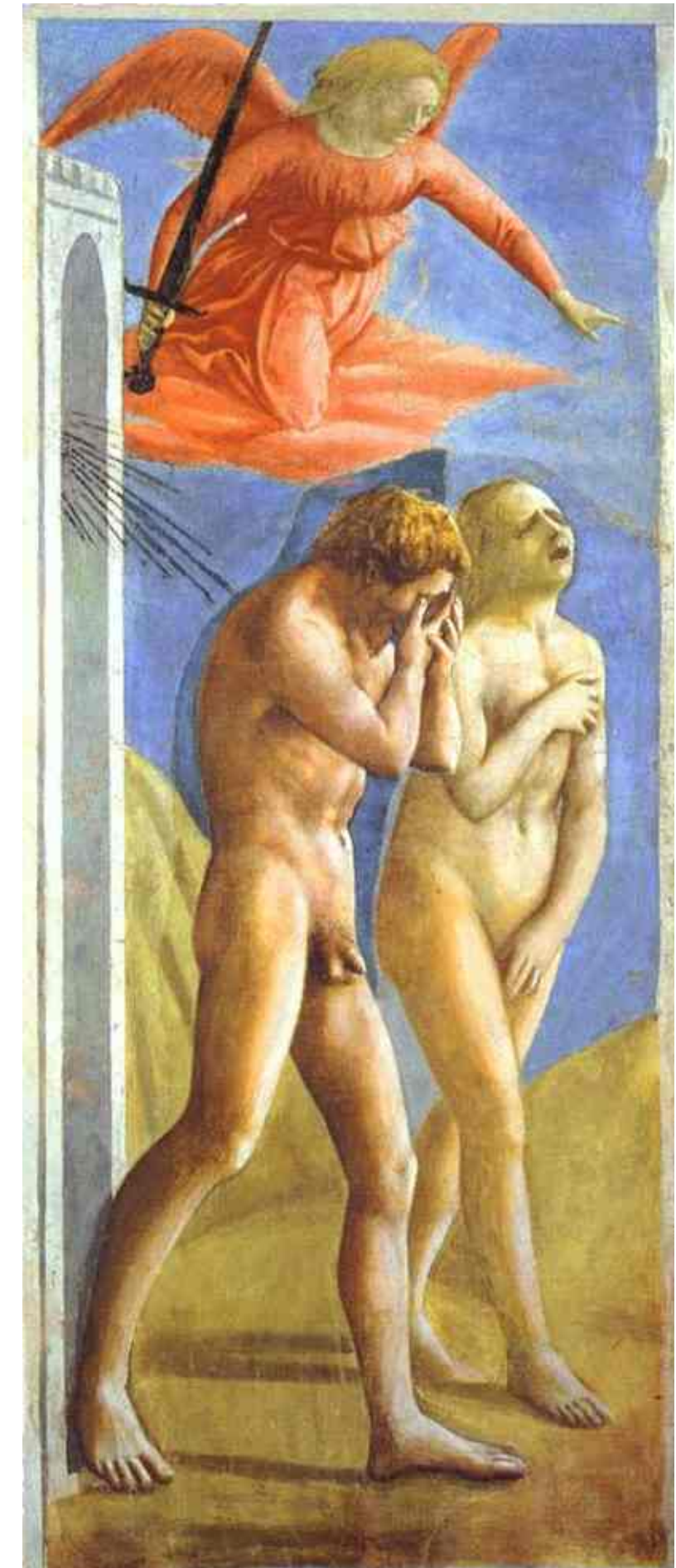
- ▶ **技術・思考・美の断裂**
 - ▶ なぜ断裂したのかを議論します
 - ▶ メディアの観点から再融合を促します
- ▶ **メディアの歴史に分野融合の先例があります**
歴史に学び, つなぐ力を培います



“The Printer”(1568) Jost Amman

美の思想史1 - 思考と表現の変遷

- ▶ 表現者は思考・美・技術融合の開拓者です
 - ▶ 試行錯誤の出力 → 多くの作品群
 - ▶ 協働と連携の先例群とも言えます
- ▶ **表現の変遷, 美とメディアの関係性を追います**
 - ▶ 分野融合で変わる世界観と思考・欲求



“楽園追放” マザッチオ

美の思想史2 - 美・存在・リアリティ

- ▶ 思考・美・技術が融合した表現の先へ
 - ▶ **美**とはなにか
 - ▶ **存在**とはなにか
 - ▶ **リアリティ**とはなにか
- ▶ **美・思考・技術の不可分性を学び、
美しさが生み出すメディア性を検討します**



“日傘をさす女” モネ

美の思想史3 - 地域性と思考体系

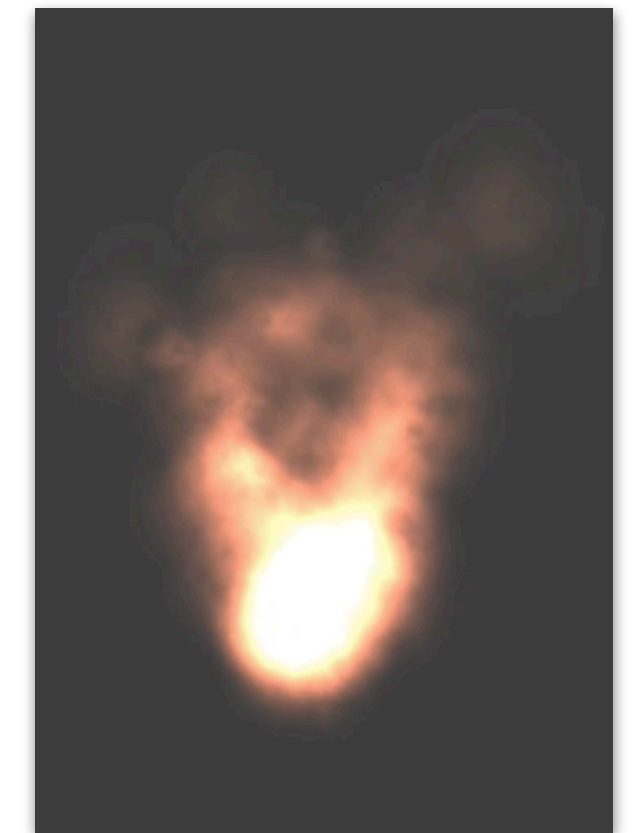
- ▶ 地域に根ざす文化性に意識を向けます
 - ▶ 日本の思考体系の特性を例に取り上げます
- ▶ 東西の思考体系が混ざる日本
 - ▶ **地域性をもつ美・思考・技術を考察します**
 - ▶ **地域性によるつなぎの特性を考察します**



表現の実践1 - 美と思考のApp開発

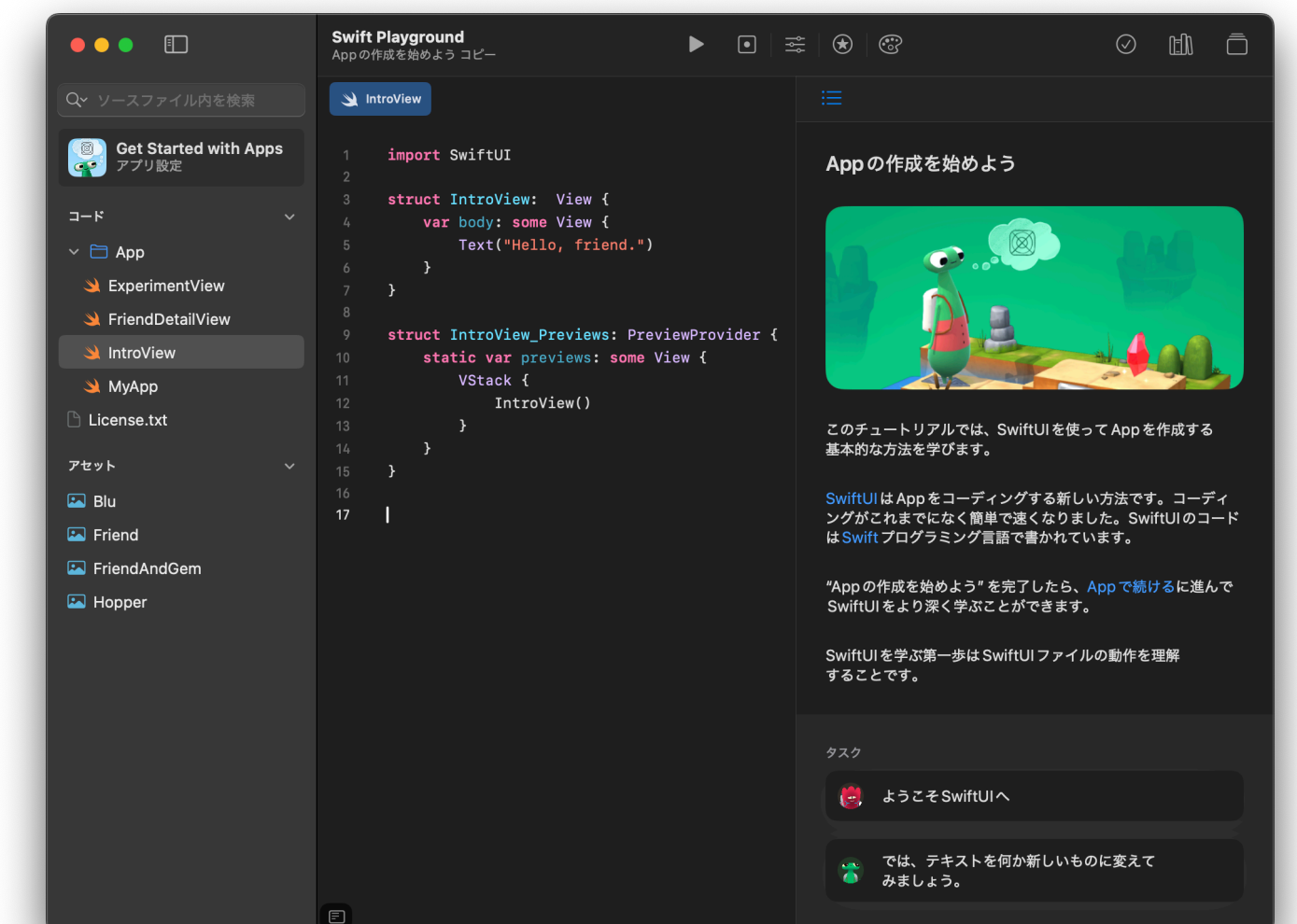
▶ iOS Appプログラミング

- ▶ 美・思考・技術の融合の実践
- ▶ 自作Appを目指す人へ開発支援します
- ▶ プログラミングの欲求について考えます



▶ 美・思考を通じた協働と連携

- ▶ 美意識をもってAppのメディア性を高めます
- ▶ App開発での協働技能・連携技能を磨きます



表現の実践2 - 美・思考・技術融合の研鑽

- ▶ Appを通して表現を**メディア**へと昇華
 - ▶ **美**の模索
 - ▶ **存在感**の醸成
 - ▶ **リアリティ**の強調
- ▶ **美・思考・技術の融合を試行錯誤**



ロマネスコ

表現の実践3 - メディアプログラミング導入

▶ Lily Playground Books

- ▶ エフェクトプログラミングの教材です
- ▶ 書く→変化する→動くの効率的な体験です
- ▶ iPad / Macで利用できます
 - ▶ Windows用Webエディタもあります



- [\[Booksのセットアップを見る \]](#)

- [\[Playground on Webを見る \]](#)

表現の実践4 - 実践メディアApp開発

▶ 実用的なメディアApp開発

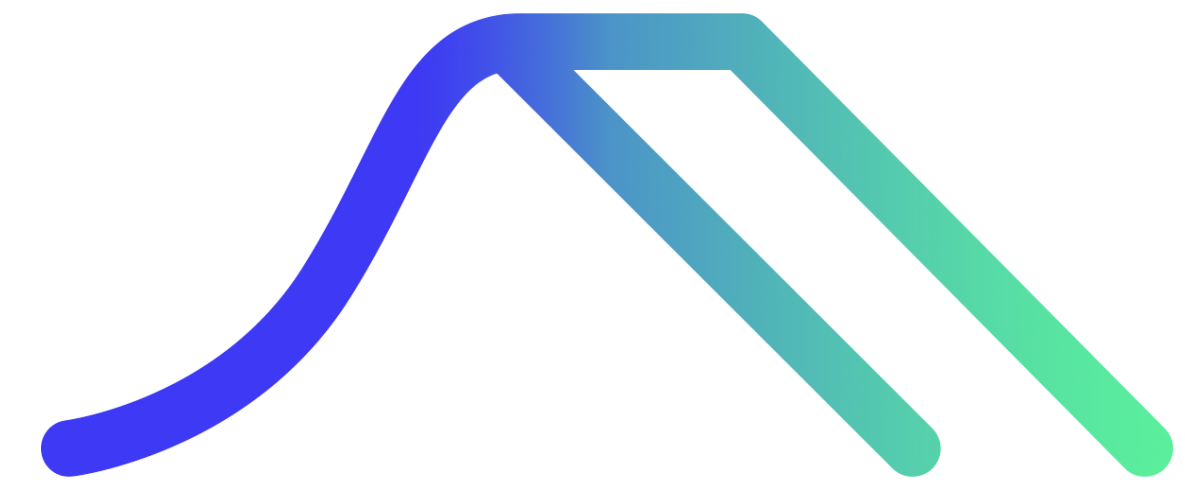
- ▶ SwiftUIを使ったiOS App開発に挑戦します
- ▶ <https://terminus.wdkk.co.jp/shige-fuji/swiftui/list/>



表現の実践5 - 社会実装への接続

「重富士Project」

- ・ 渡辺電気の開発有志プロジェクトです
- ・ 若手のメディア表現・社会実装の学習を支援します
- ・ メリット
 - ・ 開発の実践的アドバイス
 - ・ Apple Swift Student Challengeなどの支援
 - ・ Mac, iPadの貸出
- ・ <https://terminus.wdkk.co.jp/shige-fuji/about/>



授業情報

開催, 履修, 講義の参加方法

開催情報：CreApp-AとCreApp-B

水曜 4, 5限

講義実験棟 5F Studio5-1

A メディア談義

15:10 - 15:40

テーマの紹介



15:50 - 16:40

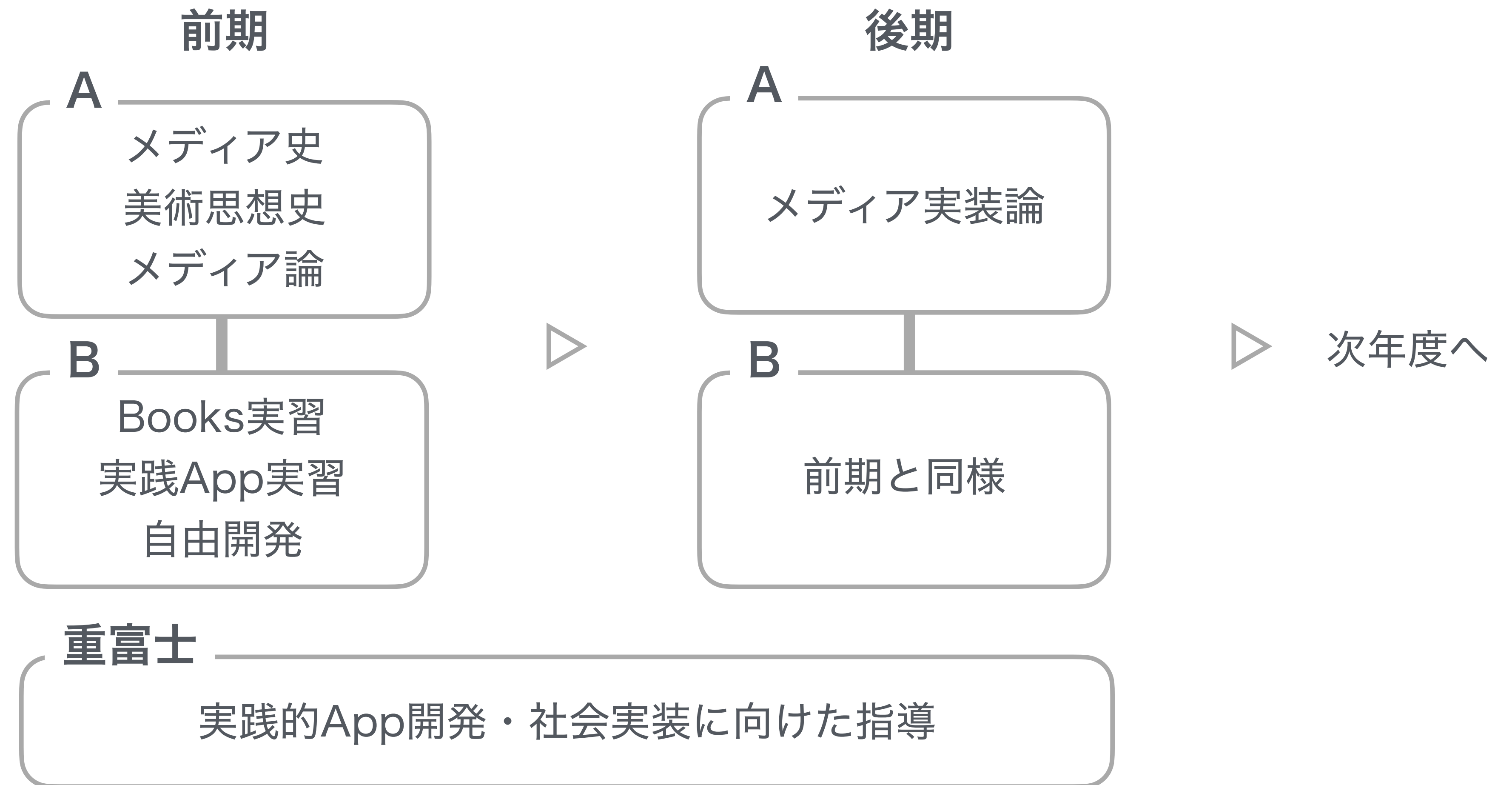
テーマの議論

B メディア開発

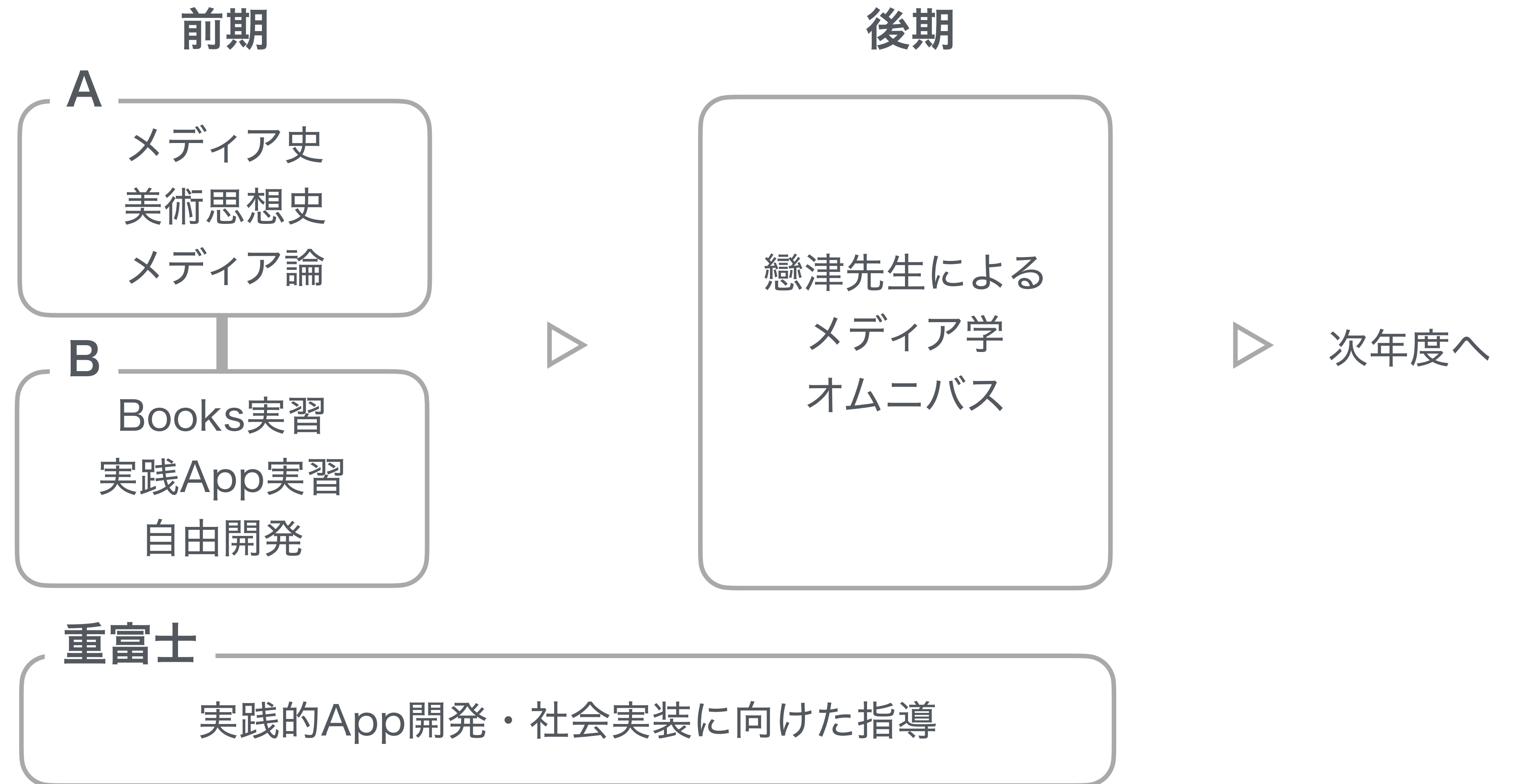
17:00 - 18:30

プログラムと技術談義 / 実習・相談・企画

講座サイクル…？



講座サイクル2026



Bの学習と活用

iPad / Mac
Playground Books

コードに親しむ



iPad / Mac
実践App開発

自己表現を楽しむ
美しい表現の試み
協働と連携を学ぶ



iPad / Mac
重富士Project など

Appの自作
社会実装の挑戦

講義情報

- ▶ 1年で全内容を学び, 3年繰り返すことで理解を深める形式です
- ▶ 聴講
 - ▶ **可能** (手続きは不要です)
- ▶ 履修
 - ▶ **1単位 / 14週参加**
 - ▶ ※ 2コマ開催していますが, **A, Bのどちらか1コマ受講で単位が認定されます**
 - ▶ ※ 2コマ参加は自由です, 両方参加してもらえるとより効果的です
 - ▶ **1Q or 2Qのいずれか1つを履修登録してください**

成績評価

- ▶ **BookStackへの記事投稿 (100/100点)**

- ▶ BookStack : 各自の記事を投稿できるサービス
 - ▶ Classroomの資料から参加が可能です

- ▶ **提出要件**

- ▶ **演習3回分以上の記事を執筆 (提出期限: 最終回の日授業開始時まで)**
- ▶ **記事1つにつき500文字以上 (計1,500文字以上)**
 - ▶ 講義メモや考察, プログラムコード進捗 など
 - ▶ 他者に伝わりやすい記事を心がけ, 読みやすい・学びがあるものは加点

おわりに

- ▶ メディア素養を身につけた上でのApp開発実装の演習です
- ▶ しかし多くの分野に応用できるメディア学の学びが得られます
- ▶ **メディア学部ならではの強み**を身につけてもらえたらと思います
- ▶ **当演習は即効性はありませんが色々なことがつながっていくのが実感できます**
- ▶ 興味が湧いた方, 参加お待ちしております